



はれるんマガジン

～気象・地震に関わる素朴な疑問に答えます～ 発行：福岡管区気象台

今月の素朴な疑問

アメダスって何をしているのですか？

テレビのお天気コーナーなどで「アメダス」という言葉を聞いたことがある方も多いかと思います。では、アメダスとはどのようなものかご存じですか？気温を観測しているのでしょうか、それとも雨雲の動きを観測しているのでしょうか、はたまた宇宙から雲を観測しているのでしょうか。アメダスという言葉は聞いたことがあっても意外とどのようなものか知らない方も多いと思います。今月はそんなアメダスについてご紹介します。

アメダスとは、人がいなくても自動で気象観測を行って観測データを収集するシステムのことです。英語の「Automated Meteorological Data Acquisition System」の頭文字をとってAMeDAS（アメダス）と呼んでいます。

アメダスで観測しているデータには「気温」、「湿度」、「降水量」、「風向・風速」があり、この4つの要素を観測している観測所と、「降水量」だけを観測している観測所があります。

この他にも「積雪の深さ」を観測しているアメダスもありますが、積雪の少ない九州では観測所は少なく、福岡県内では福岡管区気象台のみとなります。また、2021年3月1日までは「日照時間」も観測機器で観測していましたが、県内では福岡管区気象台と飯塚観測点を除き、現在は気象衛星観測から推定した日照時間のデータを公開しています。

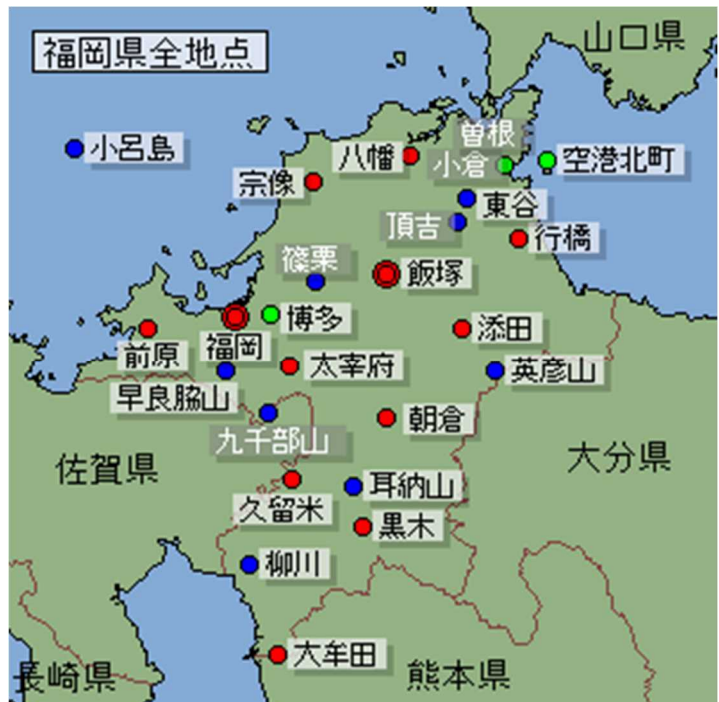
アメダスは全国で約1,300か所あり、そのうち約840か所で「気温」、「湿度」、「降水量」、「風向・風速」の4つの要素を観測しています。福岡県内には20か所のアメダスがあり、このうち14か所が4つの要素を観測しています。



アメダス観測施設の例

アメダスではデータを10秒ごとに観測し、観測したデータは10分毎にセンターシステムに送られます。集められたデータは、おかしい値がないか自動でチェックされ、テレビのデータ放送やインターネットなどで皆さんにも届けられています。また、気象台ではアメダスの観測データや気象予測資料などを基に、天気予報や注意報・警報を発表しています。

台風が接近している時には、降水量や風向・風速のデータはまさに重要です。電線が切れたりして停電してしまうことがありますが、そんな時にも観測を続けられるよう、アメダスにはバッテリーや太陽光パネルを設置しています。台風が接近しても、雨にも負けず風にも負けずアメダスはデータを送り続けているのです。



福岡県のアメダス配置図

(白字灰色背景の観測点は現在設置されていない)

今回はアメダスについて紹介しました。アメダスは立ち入りを禁止している場所に設置している場合もありますので、ご覧になりたい方は気象台までおこしてください。

※冒頭の「雨雲の動きを観測」しているのは「気象レーダー」、「宇宙から雲を観測」しているのは「気象衛星ひまわり」です。

ご意見をお待ちしています

問合せ先

〒810-0052 福岡市中央区大濠 1-2-36

福岡管区気象台地域防災推進課はれるんマガジン編集部

電話：092-725-3614

e-mail：fukuoka_bousaichousa@met.kishou.go.jp

【お知らせ】

気象教室「気象予測の最前線～観測データの効果的な利用～」

日時：令和5年11月26日(日) 13:30～16:00

会場(福岡管区気象台)、オンライン(ZOOM)同時開催

*要予約



次回の発行は2023年12月の予定です。